

東北を旅行して

札幌市医師会
やなづめ内科・循環器クリニック

やなづめ てつひこ
築詰 徹彦

先日のゴールデンウィークに東北を旅行しました。最近「北海道はおろか札幌市内でも移動制限」「毎週乗っていた地下鉄もほぼ利用せず」「学会もリモート」でしたから、久々の旅行で北海道から出たい、かといってコロナやロシアのウクライナ侵攻のこともありなんだか遠くに行ってみようかという気分でもない、とうことで「修学旅行以来の」東北としました。妻と子供たち(大学生の息子2人と高校生の娘1人)一緒に5泊6日、レンタカーを借りて免許取り立ての息子と交代で運転しながらの旅、ということで、無理ない行程となるようGoogleマップで移動距離を計算しながら計画を立てました。

美味しいものを食べられることをメインとして名所を巡ることとし、宮城⇒岩手⇒青森⇒秋田と移動しましたが、今回一番印象深かったのは意外にも「青森」でした。意外といつては失礼ですが、本州の最北部で何もないのかなと正直あまり期待していませんでした。が、①ねぶた ②奥入瀬渓流 ③三内丸山遺跡 ④弘前城の桜 に深く感銘を受けました。

①ねぶた：青森についたら「アスパム」という大きな土産館に車を止めました。館内をぼおっと見ていると「360° 3Dデジタルシアター」なるものがあるとのことに入って見たところ、ねぶたの映像が大きな音量とともに前後左右からすごい臨場感で迫ってきて感動しました。期待を込めてその足で「ねぶたの家 ワ・ラッセ」に向かい、美しく光輝く本物の大型ねぶたを見て心打たれました。日経新聞の記事によると、青森ねぶた祭は集客数が2019年に285万人と突出しており、迫力ある大型の山車を目当てに青森市の人口の約10倍の観光客が国内外から訪れ、ホテルや交通機関、飲食物産店などを潤すそうです。また、見物だけでなく参加型として、白地基調の浴衣に花笠などをかぶる「ハネト」の衣装を販売やレンタルすることで、呉服店やクリーニング店などにも効果が波及するとのこと。2年連続で中止となっているため、今年こそはの期待を感じました。ぜひ自分も本物の祭りを見てみたいと思いました。

②奥入瀬渓流：圧倒的な水量とその流れの美しさに驚きました。この時期緑も若々しく、苔も見事でした。今はその影響を受けて机の上で苔玉とそこから生える小さな木を育てて観賞しています。最近ミニ盆栽も密かなブーム？だそうです。これもコロ

ナ禍で巣ごもり生活の影響でしょうか。でも心は癒やされますね。

③三内丸山遺跡：自分が子どもの頃は、縄文時代と言えば東京都の「大森貝塚」で「エドワード・モース」という人名とセットで覚えたような記憶があります。現在の教科書は縄文時代⇒「三内丸山遺跡」とのことで、へえ〜という気分で見ようかと訪れました。丁度ボランティアのガイドさんがついて解説してもらえる時間に到着したので早速参加。ユーモアあふれる話しぶりに引き込まれながら1時間弱かけてポイントを回りました。大量の板状土偶や瓦が出土しており、現物を見ると遠い縄文時代が意外と近く感じられました。また、大変大きな建物を建てた跡があり、数百人が住んでいたと推測され、縄文時代の文化が従来考えられていたものよりも進んでいると聞いて勉強になりました。当時は食べ物として、また建物の材料として栗が大事であったそうです。この遺跡は野球場を作る工事の最中に発見されたとのことで、青森県民から保存を求める声が高まり、当時の知事が中止の英断を下さなければ日の目を見なかったとのことでした。また、遺跡を保存するためには土をかけて埋めるのが一番とのことで、実物は土の中だそうです。

④弘前城の桜：残念ながらソメイヨシノは例年より早く散ってしまい、花いかだが見られたのは10日前とのことであまり期待せずに城内を散策したのですが、多種多彩な桜が植えられていて、それが見事な咲き具合でした。祭りの屋台が出て地元の高校生なども多く、「お花見」気分を味わいました。弘前公園の県天然記念物のソメイヨシノは樹齢140年とのこと。普通寿命は70年前後とのことで凄いのひとつにつきます。弘前公園には樹齢100年を超えるものが400本以上あるとのことで、丁寧に大切に育てられてきたのだと感じました。

結構な弾丸ツアーでしたので多少疲れは残りしましたが、1日平均200キロ以上の移動もさほど苦にならず、長距離ドライブに自信ができました。未だ海外旅行という気分には到底なれそうもありませんが、北海道や日本にもまだまだ知らないところがたくさんあるわけで、こつこつと行ってみたいと旅行熱が湧き上がっている今日この頃です。